

事例1：貧困パンフレットを利用して「子どもの貧困」への 共通理解をはかる

<p>1. 活用方法</p>	<p>園内研修を実施。</p> <p>(1) <u>全職員にパンフレットを配布</u>。配布時に、それぞれで読んだりチェックしたりした後、感想等を話し合う園内研修を行うことを伝える。</p> <p>(2) 後日、21名が2組に分かれて<u>園内研修を実施し、感想や事例を共有</u>した。</p>
<p>2. 活用したことによる変化</p>	<p>【個人の変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職員一人ひとりの「<u>貧困</u>」の<u>とらえ方に変化</u>があった。 ○ また、<u>保護者の背景や考え方を</u>知って<u>子どもに接</u>することを、よりいっそう心がけるようになった。 <p>【組織としての変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パンフレットをもとに話し合いをしたことで、それぞれの「<u>貧困</u>」への<u>気付きが</u>集団としての<u>共通理解につなが</u>った。 ○ これまでの経験した事例等を出し合うことで、<u>経験年数の少ない保育士に経験上の対応方法も</u>知らせることができた。
<p>3. 活用した感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎日の保育のなかでの子ども一人ひとりの課題について、どのような背景につながっているのか、あらためて考えるきっかけになった。 ○ 「服のサイズが合っていない」、「いつも空腹そう」等、<u>気になりながら見過ごしがちな姿についての対応が具体的に書かれており、参考になった</u>。 ○ パンフレットを活用することで、職員間で話し合うきっかけや一人ひとりの振り返りができた。 ○ 貧困問題だけでなく、<u>子どもや保護者のことを理解しようとする</u>ことや、<u>職員間の連携についてもよくわかるので、すべての子どもの対応に役立つ</u>と思った。 ○ 「あの子のあの場面」等、日常の保育のなかでも、小さな信号を読み取ることができるようになった。